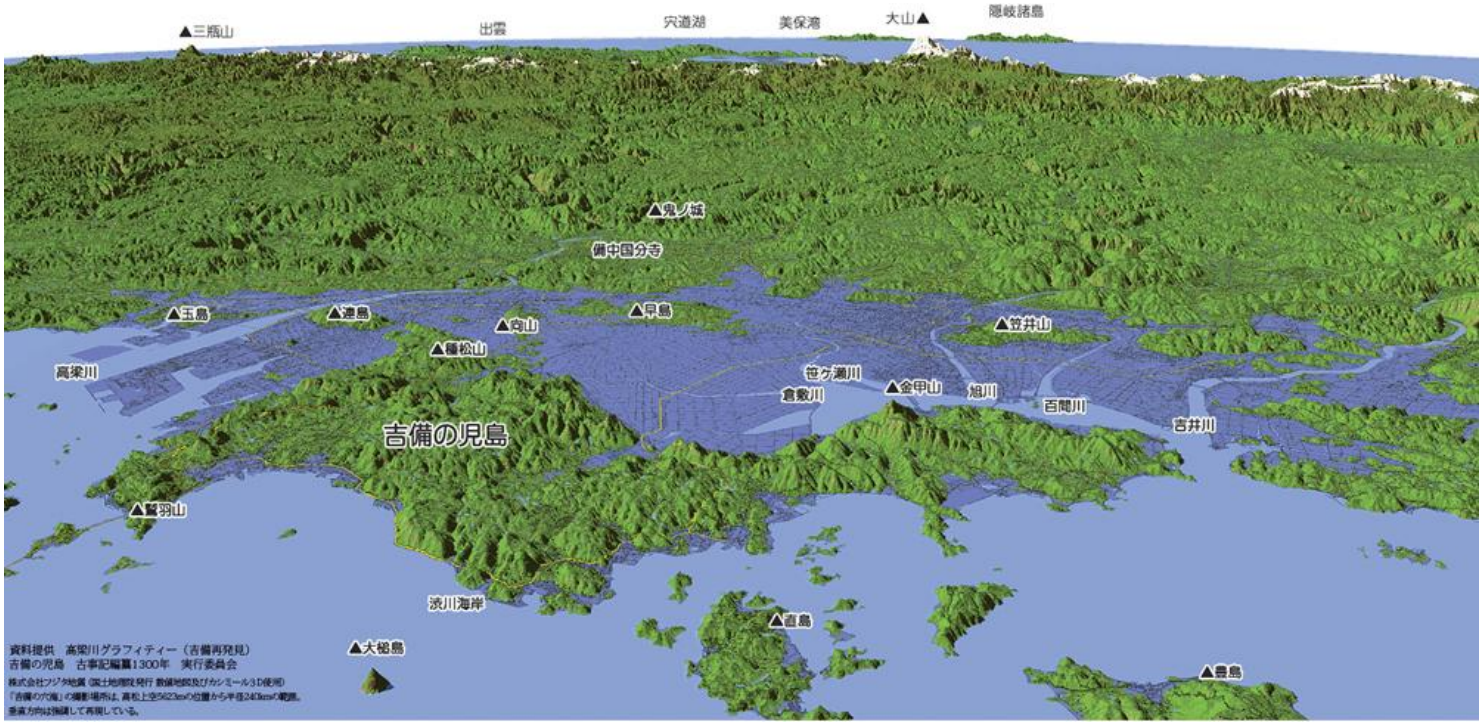
むかし児島は、島だった！

７１２年に、日本最古の歴史書『古事記』が完成された。
「古事記」の国生みの神話によれば、「吉備の児島」は、
日本で９番目の島として誕生した。
そして２０１２年、『古事記』完成１３００年を迎えた。



古事記の児島

古くから人々の間に語り継がれてきた、神を中心とした物語を神話といい、日本では『古事記』『日本書紀』がその宝庫である。
『古事記』では、国生みの神を伊弉諾（いざなぎ）尊、伊弉冉（いざなみ）尊の二尊とし、最初の夫婦神とした。国生みの順は、淡路島、四国、隠岐島、九州、壱岐島、対馬、佐渡島、本州とあり、ここまでを国土の中軸の大八洲（おおやしま）とする。そのあと属する島として、最初に「吉備児島を生みき。またの名を建日方別（たけひかたわけ）という」とあり、神話の中の児島の重さを明らかにする。つづいて小豆島などと六島の誕生を述べている。

児島を属島のいちばん最初に生んだ理由は何であろうか。ここは、瀬戸内の中ほどにあり、四国、また西国との交通上の重要拠点として注目していたものと思われる。

ちなみに、『日本書紀』では、二尊による国生みの最後の八番目に「吉備子洲」＝児島を掲げ、以上を「大八洲」としている。ここでも、その重要性、子の島として国土の繁栄に寄与する期待を込めているのではなかろうか。

解説　大谷嘉文

古　代　～

７１０年　平城京に都を移す。
７１２年　『古事記』が完成。
７２０年　『日本書紀』が完成。

近　世　～

１６０３年　徳川家康が江戸幕府を開く。
１６１８年　吉備の児島は、本州と陸続きになる。
・・・・　干拓地には、塩に強い綿が栽培される。

現代・未来　～

・・・・　「せんいのまち児島」として発展する。

２０１２年	『古事記』　完成	１３００年
２０１４年	瀬戸内海国立公園制定	８０年
２０１８年	吉備の児島　陸続き	４００年
〃	瀬戸大橋　開通	３０年
２０２０年	『日本書紀』　完成	１３００年

みんなでつくる私たちのまち児島
吉備の児島　『古事記』編纂 1300 年実行委員会
児島商工会議所　岡山県倉敷市児島駅前 1-37